

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2011

課題番号：19330059

研究課題名（和文）

ミクロ経済学の視点からの、道路政策の理論的・実証的分析

研究課題名（英文）

Theoretical and Empirical Analysis on Road Policy Based on Microeconomics

研究代表者

城所 幸弘 (Kidokoro Yukihiro)

政策研究大学院大学・政策研究科・教授

研究者番号：90283811

研究代表者の専門分野：費用便益分析、交通経済学、応用ミクロ経済学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：費用便益分析、交通、投資、道路、鉄道、ロジット、GEV、代表的消費者

### 1. 研究計画の概要

日本では道路特定財源を一般財源にするかどうか非常に大きな政治的問題になってきた。しかし、これまで、道路政策自体をミクロ経済学の視点で総合的に検証することは行われてこなかった。本研究の目的は、これまで、ミクロ経済学の視点で総合的に研究されてこなかった道路政策を、理論的・実証的に検証することである。その結果として、今後一層厳しくなると予想される財政事情の中で、道路政策をどのように位置づけるべきかを明らかにしたい。

### 2. 研究の進捗状況

(1) 交通インフラの建設費用を誰がどのように負担するのが望ましいかに関して理論分析を行い、Revenue-recycling within Transport Networks という論文にまとめた。ここでは、既存研究と異なり、道路に対する課金で、並行して走る鉄道に投資することを明示的に考慮し、これまでの知見とは異なる結果を導き出している。

(2) 費用便益分析の基礎的な考え方について、日本の状況を考慮しながら概要をまとめた。この成果は、「交通投資の費用便益分析」(『道路投資の便益評価 (東洋経済新報社)』第2章)として出版した。ここでは、経済理論と現実の費用便益分析との関係について、実際用いられている費用便益分析マニュアルを例にとりながら解説している。

(3) 費用便益分析の現状と今後の課題を展望論文としてまとめた。この成果は、「交通プロジェクトの費用便益分析—現状と課題—」(応用地域学研究 13 号)として出版した。ここでは、神戸空港の費用便益分析を例にと

ってその問題点を示し、今後の費用便益分析のあり方に関して問題提起を行っている。

(4) 一般の方々にとって非常に関心の高い政策である、高速道路料金の割引政策を経済学的に分析し、「高速道路料金の割引政策の理論的検討」(『運輸と経済』2009年9月号)としてまとめた。主要な結論は以下である。交通政策の便益評価を行う際には、交通ネットワークを明示的に考え、高速道路と代替的な交通手段(鉄道、フェリー等)の社会的余剰の変化を考慮する必要がある。その意味で、高速道路の無料化が鉄道会社やフェリー会社の経営を圧迫しているのであれば、高速道路の無料化の是非を経済学的に論じる際には、鉄道会社やフェリー会社の利潤の減少を考慮すべきである。

### 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

4本の学術論文と本の2章を3年間で執筆することができ、非常に順調な成果を得ることができた。4本の学術論文のうち、2本は一般の方の関心の高い政策を分析したものであり、学問と現実と密接な関係を示すこともできている。

### 4. 今後の研究の推進方策

現実のデータを用いる実証分析を行い、理論と実証とを両方含んだ論文を書き、国際的な学術誌への掲載を目指す。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

1. 城所幸弘, 2009. 高速道路料金の割引政策の理論的検討. 運輸と経済 69, 2009年11月号, 60-63. (招待論文, 査読なし)
2. 城所幸弘, 2008. 交通プロジェクトの費用便益分析—現状と課題—. 応用地域学研究 13, 1-26. (招待論文, 査読なし)
3. Kidokoro, Y., 2008. Revenue-recycling within Transport Networks. GRIPS Discussion Paper (National Graduate Institute for Policy Studies) 08-07, 1-33. (査読なし)
4. Kidokoro, Y., 2007. A Consistent Representative Consumer Framework for Discrete Choice Models with Endogenous Total Demand. GRIPS Discussion Paper (National Graduate Institute for Policy Studies) 07-07, 1-53. (査読なし)

[学会発表] (計5件)

1. 城所幸弘, 2009, July 3rd, A Representative Consumer Framework for Discrete Choice Models with Endogenous Total Demand, 4th Kuhmo-Nectar Conference 2009. Technical University of Denmark.
2. 城所幸弘, 2009, April 1st, A Consistent Representative Consumer Framework for Discrete Choice Models with Endogenous Total Demand, International Choice Modelling Conference 2009. Barceló Majestic Hotel, Harrogate.
3. 城所幸弘, 2008, June 20th, A Consistent Representative Consumer Framework for Discrete Choice Models with Endogenous Total Demand, Third International Conference on Funding Transportation Infrastructure. Grande Arche de la Défense, Paris.
4. 城所幸弘, 2007, 12月8日. 交通プロジェクトの費用便益分析 - 現状と課題 -. 鳥取大学 (鳥取県民文化会館)
5. 城所幸弘, 2007, September 20th, Revenue recycling within transport networks, Second International Conference on Funding Transportation Infrastructure. Katholieke Universiteit Leuven.

[図書] (計2件)

1. 城所幸弘, 2008. 交通投資の費用便益分析. 森地茂・金本良嗣 (編), 「道路投資の便益評価」, 2章, 東洋経済新報社, 29-73.
2. 城所幸弘, 金本良嗣, 2008. ロジット型モデルと費用便益分析. 森地茂・金本良嗣 (編), 「道路投資の便益評価」, 6章, 東洋経済新報社, 161-202.